

福山大学 備後圏域経済・文化研究センター 2020年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的	
領域:	使命・目的、教育目的
2020年度	備後圏域経済・文化研究センター
中長期計画	備後圏域経済・文化研究センター(以下研究センターという)は、福山大学学則第3条の2に規定する「福山大学における経済・文化に係る先端的な学術研究基盤を強化して、福山大学研究推進委員会の目的に沿って、経済学部、人間文化学部を中心とする経済と文化に係る教育研究を推進するとともに、地域の研究機関、産業界、自治体及び関係諸団体等広く社会と連携して活力ある地域づくりに貢献すること、学術・文化振興に資することを」目的としている。その目的遂行のために、まずは「先端的な学術研究基盤を強化する」ための体制を整備し、次に具体的な計画を立案し、研究内容の体系を明確化するとともに、地域との連携、学生協働を推し進めて研究調査の実施体制を整備する。
2020年度	備後圏域経済・文化研究センター
中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	本研究センターの目的は、福山大学備後圏域経済・文化研究センター規程の第2条に規定されているとおり、①経済・文化に係る先端的な研究基盤の強化、②教育研究の推進、③地域社会における関係諸機関との連携、④学術・文化振興の4分野の活動の推進を目的とするが、その具体的内容は第3条に9項目にわたって詳細に規定されている。
年度目標	本研究センター開設の年であり、4分野9項目の目的に従って、本研究センターの活動の具体化を進める。
年度報告	研究センターの活動の具体案を、予算申請で行った。①研究センターの研究室・資料室が認められた。②令和3年度の研究課題(経済部門1・文化部門1)が認められた。③HPの開設準備を終了した(令和3年度4月1日付公開)。④研究センター創設記念シンポジウムの概要を決定した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①備後圏域経済・文化研究センター令和3年度予算申請書②研究センター運営委員会第8回議事録
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会で、研究センターの個性・特色を明示するように協議する。
年度報告	前年度末の打ち合わせ会を含めて9回の運営委員会を開催し、センターの開設に向けての具体的な計画を協議した。その結果、本研究センターの独自性が「経済・文化」の連携にあること、「備後圏域」という地域性にあることを確認した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①研究センターHP「研究センターの設立と活動」②運営委員会第8回議事録
次年度の課題と改善の方策	研究センター創設記念シンポジウムの実施、およびその報告書作成によって、センターの特色を地域社会、および全国の研究センターにアピールする。
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会で、社会の要請や背景の変化を知るための資料を踏まえてそれに応じることができるようにする。
年度報告	研究センターの開設準備において、全国の同様な研究センターの例を参照するとともに、研究メンバーのこれまでの研究内容について共有し、それを踏まえてHPの作成、創設記念シンポジウムの主題・構成に反映させた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第2回運営委員会資料「備後圏域経済・文化研究センターの今後の活動予定について」②第8回運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	創設記念シンポジウムにおいて、地域における経済・文化の研究に関する需要を発見することを目指すとともに、連携の可能性を探る。
2020年度	備後圏域経済・文化研究センター
中点検項目	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。

現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会を通して、使命・目的及び教育目的に対して教職員の理解と支持を得るようにする。
年度報告	研究センター運営委員会において、センターの使命、目的及び教育目的について協議し、その結果を研究センターHPの「設立と活動」の文章として作成した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第0回運営委員会議事録②第8回運営委員会資料・議事録③HP「設立と活動」
次年度の課題と改善の方策	令和3年度運営委員会第1回で、使命・目的及び教育目的について、現行HPの内容について修正の有無を確認する。
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会で、大学HP掲載内容について検討し、発表する。
年度報告	HPについて、運営委員会で協議し、内容について決定し、開設準備を終了した。令和3年度4月1日付で公開する。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第6回運営委員会議事録②HP「設立と活動」
次年度の課題と改善の方策	HPにおけるブログ掲載の方法を検討する。
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会で中長期的計画を検討し、使命・目的及び教育目的を反映させる。
年度報告	運営委員会で中長期的計画について確認し、それを令和3年度予算申請の総括表に反映させた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第3回運営委員会議事録②令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	令和3年度第1回運営委員会で中長期的計画について検討する。
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会で、経済学部・人間文化学部それぞれの三つのポリシーを、使命・目的及び教育目的に反映させていることを確認する。
年度報告	HPに公開する研究センターの「設立と活動」の文章、予算要求書の総括表の検討の際に、三つのポリシーの反映について考慮した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①HP「設立と活動」②令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	令和3年度第1回運営委員会で、センターの使命・目的と三つのポリシーの関係について確認する。
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	福山大学備後圏域経済・文化研究センター規程第5条～第14条に、その組織について規定している。
年度目標	福山大学備後圏域経済・文化研究センター規程第5条～第14条に規定している通りに、研究センターの組織を構築する。
年度報告	研究センターの規程に則って、運営委員会、部門委員、自己点検評価委員会を組織した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第3回運営委員会議事録②第8回運営委員会資料・議事録
次年度の課題と改善の方策	令和3年度第1回運営委員会で、組織について確認する。

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

基準2. 学生

領域： 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中長期計画	研究センターは、基準1の中長期計画に示すように、備後圏域の経済・文化について幅広く研究し、その成果を踏まえて地域の経済・文化の振興に資することを目的とするが、そのためには、地域の未来を担う、地域文化の継承者である学生の教育は、研究センターの活動の重要な一端を占める。授業や課外活動を通して、学生との協働を具体化して地域との連携を深め、研究センターの活動を継続可能なものとするための研究体制を構築する。
-------	--

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	センターの活動は、授業外の取り組みとなるため、活動上予想されるハラスメント事例を、他の研究センターの事例等を参照したうえで想定し、センター独自のハラスメント発生防止策を検討する。
年度報告	今年度はセンターの活動の具体的内容についての確定が主たる内容を占めたため、活動に伴う具体的問題点については次年度の具体的な活動の開始前に検討することとした。
達成度	C
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	令和3年度第2回運営委員会以降に研究センターの活動に伴うハラスメント事例について検討を行い、発生防止策を策定する。担当者を決めて具体的に取り組む。
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施しています
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営員会で、研究センターの場所について、研究の具体的な活動と今後の活動の展開にふさわしい場所を決め、学内での承認を得る手続きを進める。
年度報告	運営員会で研究センターの活動に必要な場所として資料室と研究室の2部屋を申請し、本部1号館01312（資料室）と社会連携推進センター306（研究室）に、決定した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第3回運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	資料室の利用規定、研究室の利用規定を策定する。令和4年度予算要求において、資料室の仕器の申請を行う。
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会で研究センターの具体的な活動計画を協議し、その計画の中に、ICT教室、実習・実験設備、図書館等の施設の使用について明示する。
年度報告	令和3年度予算要求書に、研究室の必要設備は反映させた。ICT教室等の使用については、次年度に協議する。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	研究室、資料室の具体的な利用のあり方を協議するとともに、他の施設の利用についても計画的な利用を協議する。
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会で、研究センターの場所を決める過程で、学生の利便性を高める方策について協議し、提案する。
年度報告	学生や地域の中高校生に、センターの研究成果及び、地域の貴重書等研究資料の紹介行事を計画し、そのための予算を要求した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	学生をはじめ、地域の若年層への地域の文化の継承について、地域の活動団体等との連携を検討する。
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。

現状説明	本研究センターは規程上2020年4月1日付で開設され、主たる研究場所は申請の上、社会連携推進センター3F306と、本部1号館3F資料室に決定した。
年度目標	運営委員会で、研究課題の遂行、センターの運営上の利便性を考慮した適切な施設・設備、及びその管理について協議し、提案する。
年度報告	研究課題の申請において、研究遂行上必要な施設・設備、その管理について協議し、資料室・研究室がセンターの施設として認められた。また、予算要求書に反映させた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第1回運営委員会議事録②令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	研究センター資料室における資料の管理について協議するとともに、資料の学生への紹介について具体的な方法（授業での利用など）を協議する。研究室についても、地域連携における利用の方法について具体的に協議する。
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会で、研究センターの場所を決める過程で、施設の防災・防火の観点から適切な設備を計画し、予算申請する。
年度報告	資料室における資料の保存環境については予算申請したが、認められなかった、防災・防火の観点からの検討は次年度に送る。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	資料室については、貴重資料を保存するため、適切な設備の必要性を引き続き、申請する。
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	研究センターの研究活動において劇物・危険物の保管の必要性について把握し、必要に応じて安全管理の観点から管理システムについて協議する。
年度報告	現段階では、資料室・研究室において劇物・危険物はないため協議はしていないが、資料保存のための設備においては、その可能性もあるため、引き続き設備申請と同時に協議する。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	資料室、研究室の具体的な利用について、協議する。
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会で、研究センターの場所を決めると同時に、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等の実施の必要性について検討する。
年度報告	研究室、資料室については、それぞれの施設に関する適切な安全管理教育の実施、福山大学災害時避難マニュアルを確認し、それに従う。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	資料室における貴重資料の保存、利用計画に関して具体的な計画を作成し、その際の取り扱いについて検討する。

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。

現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

基準3. 教育課程**領域： 卒業認定、教育課程、学修成果**

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中長期計画

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目 3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定

点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準（ルーブリック等の評価指標を含む）等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目 3-2. 教育課程及び教授方法

点検項目 ① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。

現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題 と改善の方策	

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	
年度目標	

年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

基準4. 教員・職員**領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中長期計画	備後圏域経済・文化研究センターのスタッフは、センター長、副センター長、部門長、兼任教員、事務が核となり方向性を定め、2部門長（備後圏域経済研究部門、備後圏域文化研究部門）を含めた中枢で運営マネジメントしている。各学部から選任された教員は先の2部門に所属し、研究センターの活動を行う。検討項目として、1、実際の事業内容に応じた部門数と配置教員数の検討、2、各部門相互の連携のあり方、3、研究センターの業務内容の適切さが挙げられる。
-------	--

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	備後圏域経済・文化研究センター規程に則り、センター長および副センター長を選考し、評議会の議を経て学長が任命する。運営委員会は、センター長、副センター長、備後圏域経済研究部門長、備後圏域文化研究部門長、各学部学科から選出された6名の教員から構成される。運営委員会の委員長および議長はセンター長を充てることが規程に明記されている。また、センター長は担当副学長や前記幹部および担当事務と協議し、方針の検討を行う。
年度目標	現状の組織を実働化し、本研究センターの運営についての活動体制を確立し、具体的活動を始動させる準備を行う。
年度報告	運営委員会で規定通りの組織を構成し、それに従ってセンターの運営を実施した。各部門での協議の結果、部門委員は、文化部門においては、基軸学科のスタッフ全員が部門委員となった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第3回運営委員会議事録②HP 経済部門・文化部門の構成員一覧
次年度の課題と改善の方策	令和3年度第1回運営委員会でセンターの構成員について確認する。
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	備後圏域経済・文化研究センターの2部門（備後圏域経済研究部門、備後圏域文化研究部門）にそれぞれ部門長を置き、各部門の活動の計画・実施を担う。運営委員会で活動報告を行う。
年度報告	研究センターの組織を確立し、センター長（文化部門長）が副センター長（経済部門長）と相談の上運営委員会をリードし、部門委員による研究課題の策定を行うとともに、HPの開設については、準備委員1名を決めて委員を中心に計画、全員が協力してHPを作成した。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	創設記念シンポジウムについては、役割分担を明確にして、実施に向けた準備をすすめる。
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネジメントの機能性を高めていますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	各学部から選任された委員を、当該研究センター備後圏域文化研究部門運営細則、同備後圏域経済研究部門運営細則に則って、各部門に配置し、各部門の活動の計画・実施について任せる。
年度報告	研究センターの活動場所の決定、HPの開設準備、創設記念シンポジウムの内容の決定、研究課題の申請、すべてにおいて、それぞれの教員が役割を果たすとともに、その実施運営についてセンターの所管事務局である人間文化学部事務室との連携を進め、センターの体制を整備した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書②第6回運営委員会議事録③第7回運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	研究センターの具体的活動の開始に伴い、研究室・資料室の利用、HPの運営、創設記念シンポジウムの計画策定の上で、教職員の役割分担を明確化させる。

2020年度 備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	専任教員の外部講習会への参加を奨励し、イベントにおける教職協働を意識した活動を心掛けるように、計画する。

年度報告	予算申請に伴い、教員の計画、事務職員の実施上の連携協力が有効に働いた。資料室の整備も同様である。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	創設記念シンポジウムを念頭に、教職協働を推し進める。
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	地域研究活動に関する情報はメール発信とし、対外的な発信にはHPを活用するように計画する。
年度報告	HPの開設準備を行い、4月1日付で公開する。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第6回運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会で研究センターの場所を決めると同時に、研究に関わる施設・設備の計画を立案し、学内での承認のための手続きをとる。
年度報告	研究センター所属の資料室、研究室を学内の関係部署に申請し、所定の手続きを経て認められた。その利用計画について、予算要求書に反映させた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書②第3回運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	研究に専念する時間の確保について運営委員会で協議し、関係部署との調整を行う。
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会で、地域資源の活用にあたっての研究倫理の確立（資料の受け入れに関する規則の整備等）について検討する。
年度報告	寄贈資料についての扱いについて協議中である。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	資料室に受け入れる資料の扱いについて検討する。
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会で、予算申請の方針を定めると同時に、その配分や運用について協議・検討する。
年度報告	研究課題の申請、研究計画の展開について協議し、両部門それぞれの必要経費を申請し、認められた。運営委員会で予算申請の方針を定め、それに従って予算申請を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	具体的な活動後に、問題点をリストアップし、次年度の計画の際に反映させる。
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	福山大学「研究関連ガイドブック」、「公的研究費の管理・監査等体制」に準じる。
年度報告	今年度は研究課題の申請を行った。実施に係ることは次年度となる。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①

次年度の課題と改善の方策	令和3年度第2回運営委員会以降で確認する。
2020年度	備後圏域経済・文化研究センター
基準6. 内部質保証	
領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル	
2020年度	備後圏域経済・文化研究センター
中長期計画	備後圏域経済・文化研究センターの組織は、センター長、副センター長、部門長、兼任教員、事務で構成する。自己点検評価は、備後圏域経済・文化研究センター自己点検評価委員会細則に則って、年度計画、中長期計画、その達成度について自己点検・評価を行う。その達成度を踏まえて、次年度の計画を立て、PDCAを実施する。
2020年度	備後圏域経済・文化研究センター
中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	備後圏域経済・文化研究センター自己点検評価委員会細則に則って、自己点検・評価の組織を整備し、責任体制を確立する。
年度報告	運営委員会委員が自己点検評価委員を兼ね、センター長・副センター長の原案をもとに自己点検評価を実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和2年度自己点検評価（報告編）②備後圏域経済・文化研究センター自己点検評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	具体的な活動が増える次年度は、自己点検評価の効率化と専門化のために、役割分担を明確化することを検討する。
2020年度	備後圏域経済・文化研究センター
中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	備後圏域経済・文化研究センター自己点検評価委員会細則に則って、自己点検・評価を実施し、その結果を教職員で共有する。
年度報告	自己点検評価を実施し、その結果をSharePointにアップして教職員で共有した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①office365 SharePoint備後圏域経済・文化研究センター
次年度の課題と改善の方策	自己点検評価の役割分担の明確化を検討する。
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	各部門で当該研究センターとして必要な情報にはどのようなものがあるかについて資料収集をし、それを踏まえて、運営委員会で検討する。
年度報告	具体的な活動を踏まえて、次年度検討する。
達成度	C
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	具体的な活動を実施する過程で必要な情報を検討する。
2020年度	備後圏域経済・文化研究センター
中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み（システム）をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	社会連携センター自己点検評価委員会細則に則り、評価委員会を立ち上げ、計画書を作成する。作成した自己点検計画書を各学部学科の代表者で構成する運営委員会に諮り、その内容を認知させる。 機能性の検証については、報告書作成の際に計画実施上の問題点を挙げ、次年度の計画書作成時にそれを反映することで行う。

年度報告	自己点検評価委員会細則に則り、センター長・副センター長が中心となって、今年度の活動報告、次年度の活動計画原案を策定し、同センター運営委員会で協議の上、報告書・計画書を決定した。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①令和2年度自己点検評価（報告編）②令和3年度自己点検評価（計画編）
次年度の課題と改善の方策	自己点検評価の各項目について、役割分担し、活動の全般について点検することとした。
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	教職員のコンプライアンス確立のための体制整備の準備を行う。他の地域文化研究所の事例についての資料収集を行ない、それを踏まえて検討する。
年度報告	具体的な活動の枠組みを決定することが主であったため、次年度前半の運営委員会で検討する。
達成度	C
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	令和3年度運営委員会で他の研究センターの事例を検討し、コンプライアンス確立のための体制を整備する。

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

基準7. 福山大学ブランディング戦略**領域：「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）**

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中長期計画	備後圏域の経済・文化分野の研究・教育を担う文系研究の拠点としての役割を果たせるように、学内外のコンセンサスを得るための活動と研究成果発信を、多角的に行うとともに、研究センターとしてまとまったアピールをできるようなシステムを構築する。それによって、総合大学における文系分野の存在感を示し、地域経済・文化についての情報が自ずと集まるような施設として認知されることを目指す。
-------	--

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略（ver. 2018）の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	研究センター創設の初年度にあたり、学内外への情報発信のための周知の方法について検討し、実施する。
年度報告	センターHPの開設、創設記念シンポジウムの主題・構成について、本学ブランディングを戦略を意識した計画を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①センターHP（4月1日付公開） ②第8回運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	創設記念シンポジウムの広報について具体的に検討する。
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	本研究センターは、経済部門・文化部門が連携して地域の生活の営みを総合的に追及する文系研究の新しい形を目指している。運営委員会で、研究センター創設初年度にふさわしい取り組みを検討し、実施の準備をする。特に、本センターの研究姿勢を示す創設記念行事の具体的な形を構築し、地域との連携をスタートさせるスタートアップ行事にふさわしい行事の構成を企画する。

年度報告	本研究センターの特色は、経済研究部門・文化研究部門が連携して、地域独自の取り組みの歴史の全体像とそこに蓄積された知恵の具体相を明らかにし、今後の地域の発展に役立てることにある。同系列の文系の研究センターで、この二つの研究部門の連携をうたうものは珍しく、それだけに創設記念シンポジウムの主題をどう据えるかには工夫が必要であった。運営委員会での喧々譁々の議論の末、「コロナ後の地域社会を考える―危機への対応―備後地域の過去と未来」と題して、両研究部門の研究成果を集めて問題提起することとなった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第8回運営委員会議事録 ②センターHP
次年度の課題と改善の方策	創設記念シンポジウムの内容について構想を具体化し、外部講演者への依頼、会の具体的構成などを詰めて実施要項を作成し、創設記念シンポジウムを成功させる。
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	備後圏域の経済・文化の伝統について調査するとともに、地域の未来を担う学生と教員との協働を推し進めるシステム立ち上げのための準備をする。
年度報告	地域の経済・文化の研究を、学生、地域の若年層への継承につなげる活動を、予算の枠組みに組み込み、具体化した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	予算要求書に計画したことを実施する。
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	備後圏域に特有の経済・文化の事象を取り上げて研究し、それを通して地域振興につなげるシステムを構築する準備を行う。
年度報告	創設記念シンポジウムの開催によって、今後5年間の研究計画の基盤となる問題提起と地域連携の契機をつかむように、内容を計画した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第8回運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	創設記念シンポジウムの計画を明確にする。
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	地域の経済・文化の研究を、授業及び課外活動等で学生協働を推し進めることによって地域経済・文化の持続可能な基盤を作る人材を育成することを目指し、その体制を作ること、またその成果の検証には、卒業生をも含んだ体制を作る準備を行う。
年度報告	予算要求書において、当該活動に係る予算の枠組みを設定し、次年度の計画に組み込んだ。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	授業での取り組み、地域の若年層への継承活動の具体的計画を立てる。
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	学生協働による、地域連携の授業、課外活動の取り組みの具体的方策を計画するとともに、その検証システムの構築のための準備を行う。

年度報告	予算要求書に計画のための予算を組み込んだ。その検証システムについては、次年度の運営委員会で行う。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和3年度備後圏域経済・文化研究センター予算要求書
次年度の課題と改善の方策	検証システムについては、計画の実施の前に方策を検討する。
点検項目	㉦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	これまでの両部門での実践を体系化し、研究センターとしての取り組みとしてまとめる準備を行う。
年度報告	地域文化研修というフィールドワークを計画し、予算要求書に反映している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㉧ 福山ブランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させる必要があります。ブランディング戦略のブラッシュアップにどのように取り組んでいますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	運営委員会で、研究センターの活動内容について検証するとともに、地域社会のニーズについて情報収集を行う体制を整備する準備を行う。
年度報告	具体的な活動は次年度以降となるため、検証の方法については次年度運営委員会で検討する。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	地域における連携可能な組織との具体的な連携を計画する。

2020年度

備後圏域経済・文化研究センター

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	㉠ 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	これまで各部署で、それぞれに独自に活動を行っており、それぞれに情報発信をしている。
年度目標	各部署で取り組んできた活動を、研究センターとして体系化するための準備を行う。
年度報告	研究課題として、経済部門・文化部門各1の課題を作成し、認められた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	それぞれの活動を報告書にまとめる。
点検項目	㉡ 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	各部署で、各教員が個別に行って来た。
年度目標	研究センターとして外部資金獲得に向けての可能性を検討する。
年度報告	研究課題の資金の項に可能な助成金事業について掲載している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①研究課題2点
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㉢ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	2020年4月1日付で創設のため、研究センターの体制を整備する。
年度目標	各分野で個別に行ってきた研究成果発信を、研究センターとしてまとめて発信するシステムを構築し、実施する。
年度報告	HPでの報告を検討している。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①第6回運営委員会議事録
次年度の課題 と改善の方策	H P の開設準備を行い、4月1日付で公開する。ブログの運営の可能性を検討する。